

胡錦濤政権期の「外交ドクトリン」

2012年2月16日（木）14時～17時

南山大学名古屋キャンパス

J棟 1 階特別合同研究室(Pルーム)

報告1 中国における国益論争と核心的利益

前田宏子（PHP 総合研究所主任研究員）

報告2 胡錦濤政権前期における「韜光養晦」をめぐる論争とその背景
—外交政策形成過程の変容の視点から—

李 彦銘（慶應義塾大学法学研究科後期博士課程）

報告3 中国の国際的身分 —「責任ある大国」から検証する

徐 顕芬（早稲田大学現代中国研究所客員専任講師、
人間文化研究機構地域研究推進センター研究員）

報告4 中国におけるグローバル・ガバナンス論

俞 敏浩（名古屋商科大学コミュニケーション学部専任講師）

司会 星野昌裕（南山大学総合政策学部准教授）

討論 須藤季夫（南山大学総合政策学部教授）

鈴木 隆（愛知県立大学外国語学部中国学科専任講師）

中国の台頭が語られるようになって久しい。さらに 2000 年代から世界的なパワー・シフトの時代を迎え、新大国、中国の動向は世界の注目の的となっている。しかし中国外交の内実については、政策の多元化、利害関係者の多様化が指摘されており、その実態は益々つかみ難くなっている。

本シンポジウムでは、胡錦濤政権の外交方針に密接に関連する 4 つのキーワードを事例に、中国政府が提起する「外交論」の形成過程と実質を明らかにし、中国外交の指向性に具体的に迫る。

携帯電話、
スマートフォンから
この講演会の情報が
読み取れます。↓

